

平成23年度高鍋町事務事業評価表

◎事務事業の概要

事務事業名	四季彩のむら整備事業補助金		基本目標	環境保全型農業の推進		
担当課(局)・係	産業振興課	産業企画係	記入者	濱本 生代	評価者	長町 信幸
評価状況	<input type="checkbox"/> 新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 評価対象外 ※評価対象外を選択した場合は、その理由を下段から選んでください					
	理由	<input type="checkbox"/> 法定受託事務である <input type="checkbox"/> H24年度以降実施しない <input type="checkbox"/> その他(※下段に理由を記入)				

◎事務事業の目的・内容

事業の目的	対象(誰を・何を) 四季彩のむらの対象農地						
	意図・目的 昭和30年代の農村風景の再現、自然環境保全						
事業の内容	県内では山間部以外では見ることの少なくなった普通期水稻やレンゲ、ソバなど四季の彩り豊かな農作物を栽培する農家に対し面積に応じて補助金を支給						
22年度決算額	1,698	千円	23年度予算額	1,799	千円	事業従事者数 H22 0.10 人 H23 0.10 人	
主な支出項目	補助金	1,698	千円	国庫支出金		千円 22年度人件費 720 千円	
			千円	県支出金		千円 23年度人件費 714 千円	
			千円	地方債		千円 23年度予算額における一般財源の割合(H23) 100.0 %	
			千円	一般財源	1,799	千円 根拠法令・要綱等があれば記載してください	
			千円			千円 宮崎県新農業振興対策協議会設置要綱	
町の補助事業	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> 町単独補助 <input type="checkbox"/> 国県補助		補助事業名		四季彩のむら整備事業補助金(景観奨励金)		
	補助交付団体		四季彩のむら		補助金要綱		
	補助額		1,697,938	円	補助の形態	奨励的補助	23年度補助額
	団体の決算額		1,697,938	円	昨年度までの補助金見直しの状況・検討委員会での決定事項等		
	補助の割合		100.0	%			
	繰越額		0	円			

◎成果指標と活動指標

成果指標	成果指標名	何を狙い、どのような成果が得られたのか
	1 四季を彩る作物数	季節の作物を栽培し、四季を感じることでできる農村風景を再現することで安らぎの場を提供
	2	
	3	
活動指標	活動指標名	どれほどの活動をしたのか、事業の手法、手順等を詳細に
	1 栽培面積	全ての農家が対象農地に対象作物を栽培
	2	
	3	

◎達成状況

指標名		単位	21年度	22年度	23年度
成果指標	四季を彩る作物数	目標値	3	3	
		実績値	3	3	
		達成率	100.0%	100.0%	
	0	目標値			
		実績値			
		達成率	%	#DIV/0!	#DIV/0!
活動指標	栽培面積	目標値	52,457	52,457	
		実績値	52,457	52,457	
		達成率	100.0%	100.0%	
	0	目標値			
		実績値			
		達成率	%	#DIV/0!	#DIV/0!

事務事業名	四季彩のむら整備事業補助金	担当課(局)	産業振興課
-------	---------------	--------	-------

◎事務事業の評価

		評価する項目	点数	
			自己評価	委員評価
妥(必 当 要 性)	高鍋湿原や総合交流ターミナル施設などを一体的に整備し、高鍋町への来訪者を増やすという目的を達成するためには町が行うべきものとする。	◎目的からして町が行うべきか	2	-
		◎同様の事業を他課・他団体で行っていないか	2	-
		◎社会情勢(住民ニーズ)に適應しているか	2	-
		◎事業廃止による影響があるのか	2	-
有 効 性	遊歩道整備も行い、ウォーキング団体がイベントを行うなど地域住民以外の方のやすらぎの場としても利用されるなど成果が得られている。現在の良好な状態を保ち続けていくことが大切である。	◎目標に対して成果は得られているか	2	-
		◎すでに目的は達成されていないか	1	-
効 率 性	ほぼ全ての対象農地において、2種の景観作物が栽培されている。農地への作付以外にも道路脇や畦などにも懐かしい草花を植える活動等も行われ、四季を感じる農村風景をなしている。	◎活動量の効果は実際に上がっているか	2	-
		◎費用対効果が十分に認められるか	1	-
協 働 性	むら人の高齢化が進んでいるため、景観保全の作業など協働を進めていく必要がある。	◎町民との協働の可能性はあるか(ボランティア・NPO等)	1	-
合計(最高18点)			15	-

※町補助をしている場合のみ記入

公(公 益 平 性 性)	「やすらぎ」を数値化して評価することは難しいが、昔ながらの農村風景から得られる癒しの効果は非常に公益性が高いと考える。	◎公益性が高いか ※公益性:不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与していること	2	-
		◎行政では対応できない部分を、補助事業がカバーしているか	1	-
		◎町民の理解が得られる事業であるか	1	-
合計(最高4点)			4	-
そ の 他				

◎総合評価(今後の方向性を含む)

総 合 評 価	◎担当者の方針に対する評価者としての所見 ◎統括者として、どのように事業を進めるべきと考えているか、等	四季彩のむらの基本的なコンセプトは30年の農村風景である。まずは視覚にうったえることが必要であるが、村民みんなでの努力、協力も必要。	今後の方向性			
			事業の方向性	廃止	縮小	現状維持
				○		
			コスト			

事務事業評価委員会 評価欄	事業	現状維持	◎そばの販売など収益があがるまでの間は現状維持と考える。 ◎H24年度減額・H25年度廃止、今後作付けした品種を利用して、自主運営に変更する。	
	コスト	縮小		
	委員評価	—		
	外部評価	—		